



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

NIKEN
GT
NIKEN GT

B5B-28199-J1

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（車をより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-5
環境・住民の方との調和のために	1-6

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
イモビライザーシステム	3-1
メインスイッチ	3-2
ハンドルスイッチ	3-3
警告灯と表示灯	3-5
クルーズコントロールシステム	3-7
マルチファンクションメーター	3-10
盗難警報器（別売アクセサリ）	3-17
D-mode（ドライブモード）	3-18
シフトペダル	3-18
クイックシフトシステム	3-19
ABS	3-19
トラクションコントロール システム	3-20
フューエルタンクキャップ	3-22
燃料	3-23
シート	3-23
ヘルメットホルダー	3-24
書類入れ	3-25
小物入れ	3-26
バックミラー	3-26

フロントフォークの調整	3-27
リヤクッションの調整	3-28
ブレーキレバーの握り調整	3-29
DC ジャック	3-30
サイドスタンド	3-30
イグニッションサーキット カットオフシステム	3-31

日常点検	4-1
日常点検の実施	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作	5-1
ならし運転	5-1
エンジン始動	5-1
ギヤチェンジのしかた	5-2
ブレーキ	5-3
駐車	5-3

点検整備	6-1
点検整備の実施	6-1
サービスツール	6-2
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-3
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-4
低速、加速の状態の点検	6-5
冷却水	6-5
エアクリーナーエレメントの交換	6-6
タイヤ	6-7
クラッチ	6-8

ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-9
ブレーキランプスイッチの点検	6-9
ブレーキパッドの点検	6-10
ブレーキ液量の点検	6-10
ドライブチェーン	6-11
ドライブチェーンの給油	6-12
車体各部の給油脂状態の点検	6-12
バッテリー	6-13
ヒューズ交換	6-14
灯火装置および方向指示灯の点検	6-17
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-17

お車の手入れ	7-1
洗車	7-1
アルミフレーム、 キャストホイールの取り扱い	7-2
ウインドシールドの取り扱い	7-2
保管のしかた	7-3
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-2
車両情報	9-2

索引	10-1
----------	------

JAU27281

JAU2737A

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

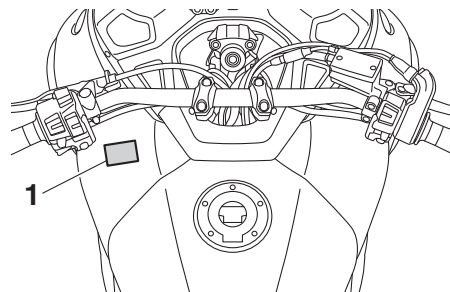
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - ・ 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - ・ 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転のために

1



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

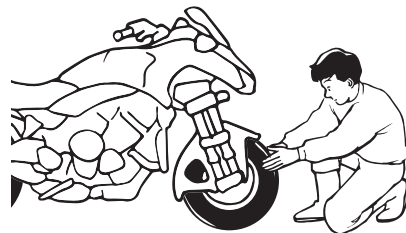
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



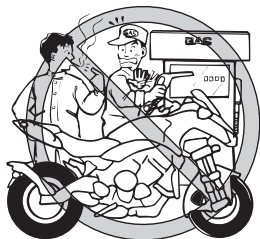
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

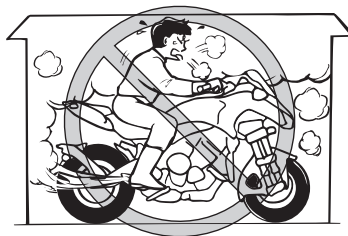
給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

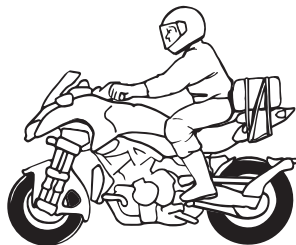


風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

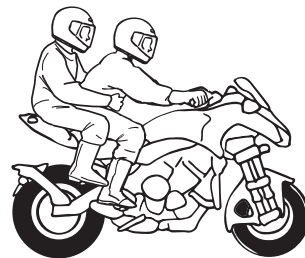


- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

安全運転のために

1

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



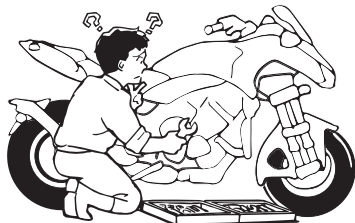
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から3年後に受け、2回目以降の継続検査はその後2年ごとに受けます。

検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

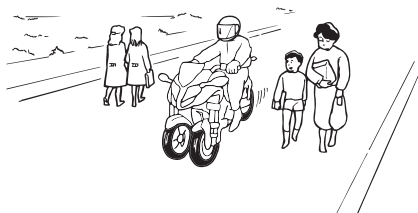


歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

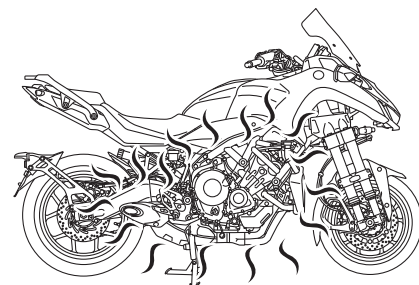
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセッティングされているかを確認してください。

JWA12241

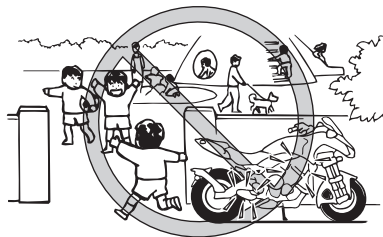
警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。



安全運転のために

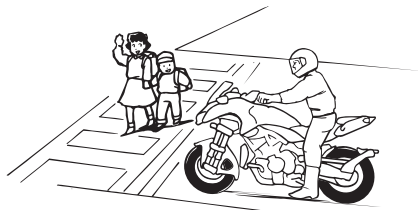
1

環境・住民の方との調和のために

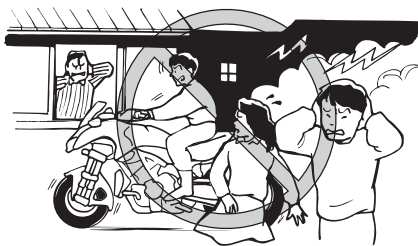
JAU27582

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

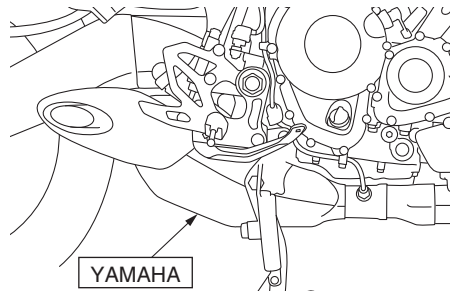


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

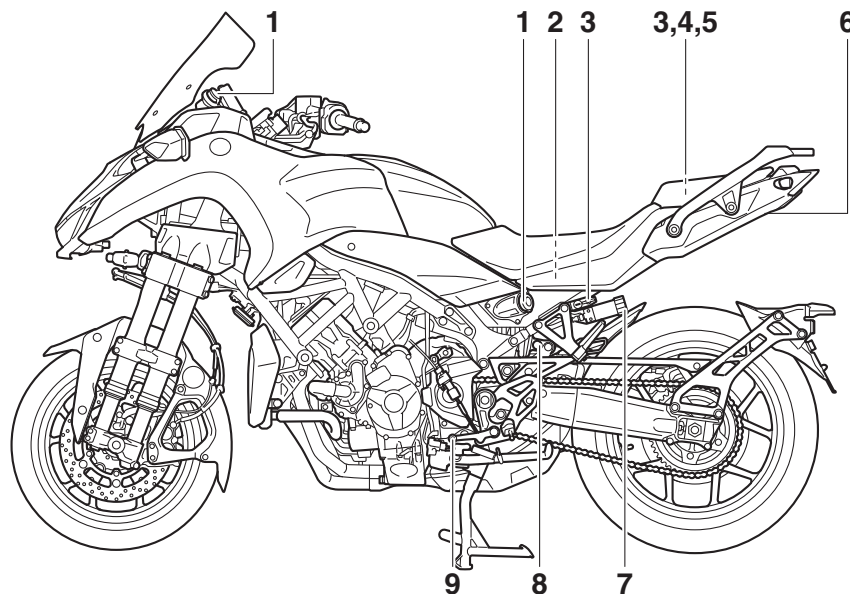
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面



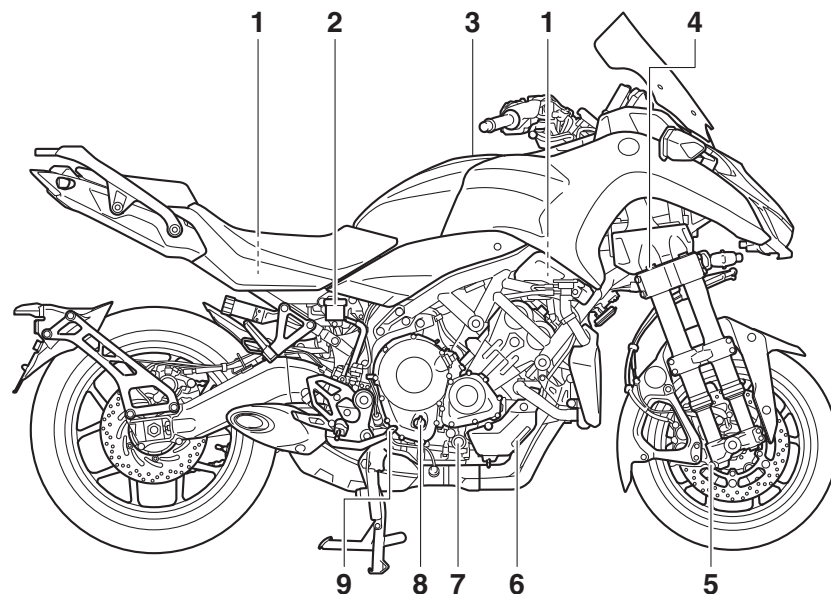
1. DC ジャック (P3-30)
2. バッテリー (P6-13)
3. ヘルメットホルダー (P3-24)
4. 小物入れ (P3-26)
5. サービスツール (P6-2)
6. シートロック (P3-23)
7. スプリングプリロードアジャスター (P3-28)
8. 伸側減衰力アジャスター (P3-28)
9. シフトペダル (P3-18)

各部の名称

JAU10421

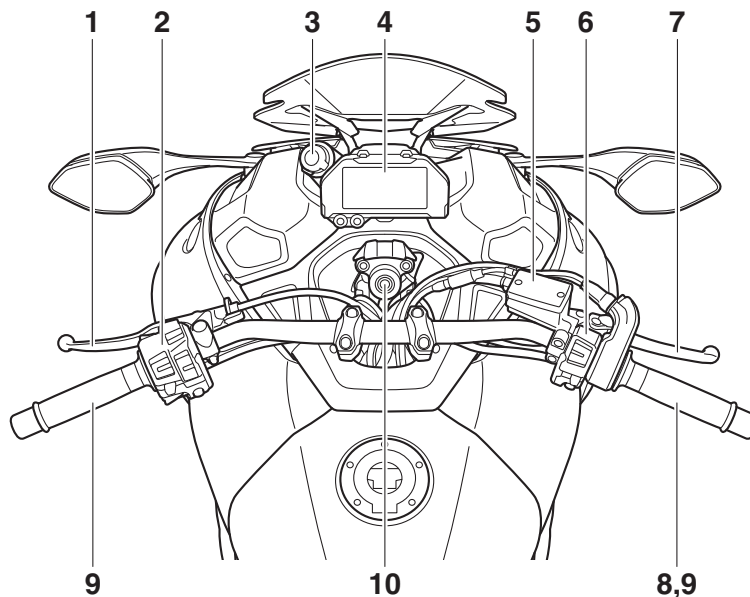
右側面

2



1. ヒューズ (P6-14)
2. リヤブレーキリザーバータンク (P6-10)
3. フューエルタンクキャップ (P3-22)
4. 伸側減衰力アジャスター (P3-27)
5. 圧側減衰力アジャスター (P3-27)
6. リカバリータンク (P6-5)
7. エンジンオイル点検窓 (P6-3)
8. オイル注入口 (P6-3)
9. ブレーキペダル (P 6-9)

運転装置と計器類



1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-3)
3. DC ジャック (P3-30)
4. マルチファンクションメーター (P3-10)
5. フロントブレーキリザーバタンク (P6-10)
6. ハンドルスイッチ (右) (P3-3)
7. ブレーキレバー (P6-9)
8. スロットルグリップ
9. グリップウォーマー (P3-13)

10. メインスイッチ / ハンドルロック (P3-2)

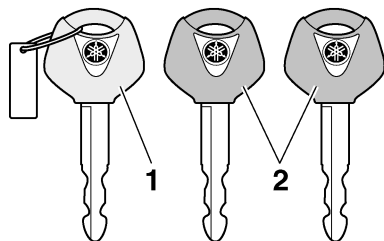
各部の取り扱いと操作

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要で大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。

3



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または布製のものをお勧めします。

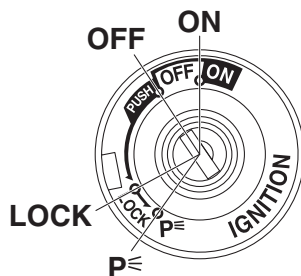
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は 3-7 ページを参照してください。）

メインスイッチ

JAU10462



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU90040

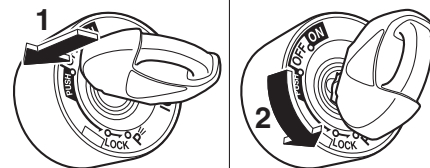
ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まっても車両の電源をオフにするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

JAU46011

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU1068B

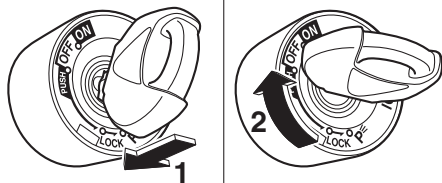
LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

各部の取り扱いと操作

ハンドルロックの解除のしかた

3



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

P_Ⓟ (パーキング)

ハザードランプを点灯させることができますが、その他の電気回路はオフになります。キーを抜くことができます。

キーを P_Ⓟ にする前に、ハンドルをロックしてください。

JAU65680

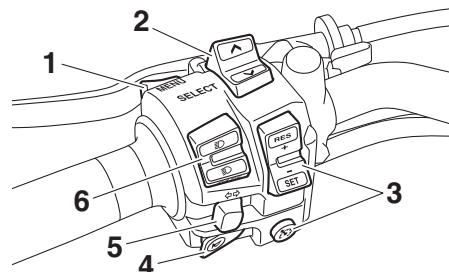
JCA22330

注意

ハザードランプの長時間の使用は、バッテリーあがりの原因になります。

ハンドルスイッチ

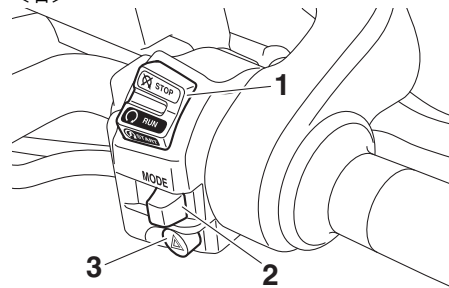
<左>



1. “MENU” スイッチ
2. “SELECT” スイッチ
3. クルーズコントロールスイッチ
4. ホーンスイッチ “ ”
5. 方向指示器スイッチ “ / ”
6. ヘッドライト上下切り替え / パッシングライトスイッチ “ / / PASS ”

JAU66055

<右>



1. スターター／エンジンストップスイッチ “ / / ”
2. ドライブモードスイッチ “MODE”
3. ハザードスイッチ “ ”

JAU54202

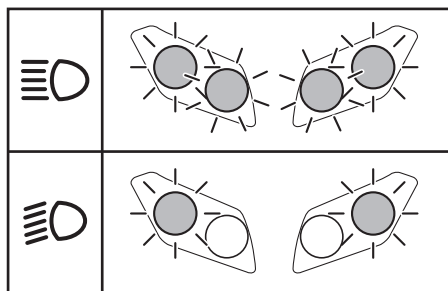
ヘッドライト上下切り替え／パッシングライトスイッチ “ / / PASS”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えたり、パッシング（スイッチを押している間、ヘッドライトの上向きも点灯）させるスイッチです。

(上向き)：遠くを照らします。

(下向き)：近くを照らします。

各部の取り扱いと操作



ヘッドライトの配光が下向きになるときに“PASS”側を押すと、ヘッドライトの上向きも点灯します。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU85490

方向指示器スイッチ“◁/▷”

進路変更の合図に使用します。操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

▷: 右側の方向指示灯が点滅します。

◁: 左側の方向指示灯が点滅します。

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JWA11641

ホーンスイッチ“📢”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

JAU66030

要 点

必要なときにのみ使用してください。

スターター／エンジンストップスイッチ“🔌/🔌/🔌”

JAU66061

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“🔌”に合わせながら、スイッチを“🔌”まで押してください。

JCA11882

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには“🔌”にします。通常は“🔌”にしておきます。

⚠ 警告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JWA17700

注 意

- 非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを“🔌”→“🔌”→“🔌”にしないでください。エンジン不調の原因となります。

要 点

“🔌”にすると、エンジンは始動できません。

ハザードスイッチ“🚨”

JAU66010

メインスイッチを ON または P にした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。

ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

各部の取り扱いと操作

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

3

クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの詳細については、3-7 ページを参照してください。

“MENU” スイッチ

このスイッチは、マルチファンクションメーターにおいて、各種設定を変更するために使用します。(3-10 ページ参照)

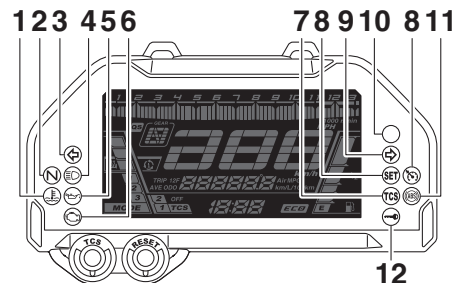
“SELECT” スイッチ

このスイッチは、マルチファンクションメーターにおいて、各種設定を変更するために使用します。(3-10 ページ参照)

ドライブモードスイッチ “MODE”

ドライブモードの詳細については、3-18 ページを参照してください。

警告灯と表示灯



1. 水温警告灯 “⤴”
2. ニュートラルランプ “N”
3. 方向指示器表示灯 (左) “⤵”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”
5. エンジンオイル量警告灯 “⛽”
6. エンジン警告灯 “⚠”
7. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”
8. クルーズコントロール表示灯 “Ⓢ” / “SET”
9. 方向指示器表示灯 (右) “⤶”
10. シフトタイミングインジケータランプ “○”
11. ABS 警告灯 “(Ⓢ)”
12. イモビライザーシステム表示灯 “⚡”

方向指示器表示灯 “⤵” / “⤶”

方向指示器に合わせて点滅します。

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

ヘッドライト上向き表示灯 “≡〇”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

エンジンオイル量警告灯 “⛽”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。エンジンの損傷を防ぐため、早めに補給してください。

エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速の間は警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。エンジンオイル量の検出回路に異常が検出された場合、警告灯が繰り返し点滅します。このような場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。エンジンオイル量が正常にも関わらず (6-3 ページ参照)、警告灯が点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

クルーズコントロール表示灯 “Ⓢ” / “SET”

クルーズコントロールシステムが作動すると点灯します。(3-7 ページ参照)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

水温警告灯 “”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。ラジエターファンのあるモデルは、ラジエター内の冷却水の温度に応じて、ラジエターファンが自動的に作動します。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

注 意

エンジンがオーバーヒートした場合、エンジンの使用を続けしないでください。

エンジン警告灯 “”

エンジンに異常が発見されると、この警告灯が点灯します。この場合、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

ABS 警告灯 “”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

警告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

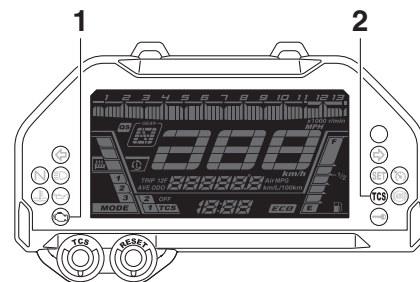
- 急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。
- 直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。

トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

通常、乗車中は消灯しています。トラクションコントロールが作動すると、トラクションコントロールシステム表示灯が数秒間点滅し、その後消灯します。

トラクションコントロールシステムをオフにすると、トラクションコントロールシステム表示灯が点灯します。

乗車中にトラクションコントロールシステムが解除されたり、異常が発生すると、トラクションコントロールシステム表示灯とエンジン警告灯が点灯します。（トラクションコントロールシステムについて、詳しくは 3-20 ページの説明を参照してください。）



1. エンジン警告灯 “”
2. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

各部の取り扱いと操作

3

シフトタイミングインジケータランプ

JAU74091

設定されたエンジン回転数になると点灯または消灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。(詳しくは 3-16 ページを参照してください。)

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯 “”

JAU73121

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。車両の電源をオフにすると、イモビライザーシステムが機能し、約 30 秒間経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。表示灯が全く点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーキーの認証エラー

イモビライザーシステム表示灯が、ゆっくり 5 回、すばやく 2 回の点滅を繰り返すときは、キーのIDの認証が妨げられた可能性があります。この場合は、次のことを試してみてください。

1. 他のイモビライザーキーがメインスイッチの近くにないことを確認します。
2. メインキーでエンジンを始動します。
3. エンジンが始動したら、エンジンを止め、サブキーで始動できるか確認します。
4. エンジンの始動ができないキーがあった場合には、車と 3 本全てのキーを持って、ヤマハ販売店でキーの再登録を受けてください。

クルーズコントロールシステム

JAU86530

この車は、一定の速度を維持するためのクルーズコントロールシステムを装備しています。

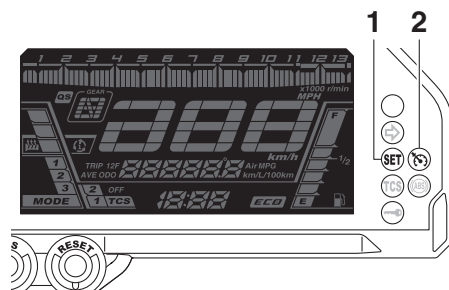
クルーズコントロールシステムは、4 速ギヤ以上で約 50 km/h ~ 160 km/h の間で走行しているときにのみ作動します。

JWA20820

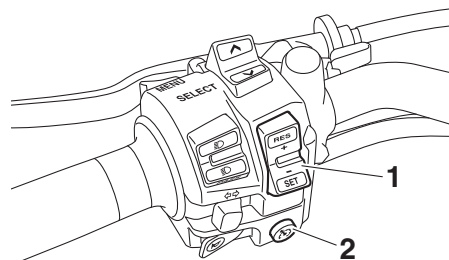
警告

- 法定速度を守って走行してください。
- クルーズコントロールシステムを誤って使用すると、制御を失い、事故につながる可能性があります。クルーズコントロールシステムは、交通の激しい場所、悪天候時、カーブの多い道、滑りやすい道、斜面、凹凸のある道、または砂利道などで作動させないでください。
- 上り坂または下り坂を走行する場合、クルーズコントロールシステムは設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。
- クルーズコントロールシステムを誤って作動させないため、使用しないときはスイッチを切ってください。クルーズコントロールシステム表示灯 “” が消灯していることを確認してください。

各部の取り扱いと操作



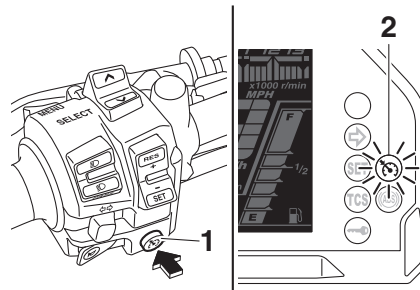
1. クルーズコントロール設定表示灯“SET”
2. クルーズコントロールシステム表示灯“RES+”



1. クルーズコントロール設定スイッチ“RES+/SET-”
2. クルーズコントロール電源スイッチ“RES+”

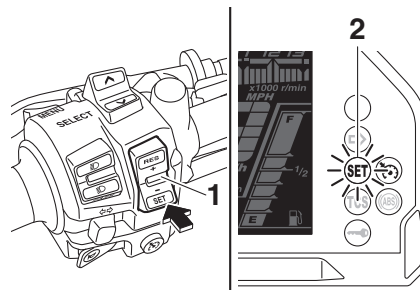
クルーズコントロールシステムの作動と設定

1. 左ハンドルのクルーズコントロール電源スイッチ“RES+”を押します。クルーズコントロールシステム表示灯“RES+”が点灯します。



1. クルーズコントロール電源スイッチ“RES+”
2. クルーズコントロールシステム表示灯“RES+”

2. クルーズコントロール設定スイッチの“SET-”側を押して、クルーズコントロールシステムを作動させます。現在の走行スピードがクルージングスピードとして設定され、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が点灯します。



1. クルーズコントロール設定スイッチ“RES+/SET-”
2. クルーズコントロール設定表示灯“SET”

設定したクルージングスピードの調整

クルーズコントロールシステムの作動中、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押すと、設定したクルージングスピードが増加し、“SET-”側を押すと設定したクルージングスピードが減少します。

要 点

設定スイッチを1度押すごとに、設定スピードが約2.0 km/h 変化します。クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側または“SET-”側を押したまま保持すると、スイッチをはなすまで、スピードが連続的に増加または減少します。

走行スピードは、スロットルを使用して手動でも増加することができます。加速した後、設定スイッチの“SET-”側を押すと、新しくクルージングスピードの設定ができます。新しくクルージングスピードの設定をしない場合、スロットルグリップを戻すと、車両は前回設定したクルージングスピードまで減速します。

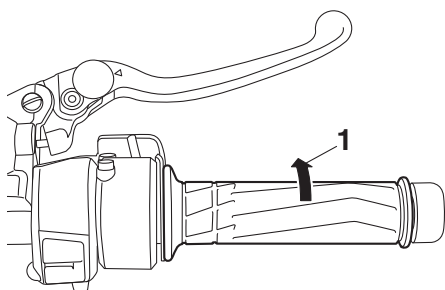
クルーズコントロールシステムの停止

設定したクルージングスピードを取り消すには、次のいずれかの操作を行います。この操作を行うと、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

- スロットルグリップを、全閉位置よりさらに減速方向に回します。

各部の取り扱いと操作

3



1. 減速方向

- フロントブレーキまたはリアブレーキをかけます。
- クラッチを切ります。

電源スイッチを押して、クルーズコントロールシステムをオフにします。クルーズコントロールシステム表示灯“”およびクルーズコントロール設定表示灯“SET”が消灯します。

要 点

クルーズコントロールシステムを停止したとき、スロットルグリップを回さないで、すぐに走行スピードが減少します。

再開機能の使用法

クルーズコントロールシステムを再び作動させるには、クルーズコントロール設定スイッチの“RES+”側を押します。走行スピー

ドが前回設定したクルージングスピードに戻り、クルーズコントロール設定表示灯“SET”が点灯します。

JWA16351

警告

前回設定したクルージングスピードが現在の走行状況に対して速すぎる場合、再開機能を使用することは危険です。

要 点

システムの作動中に電源スイッチを押すと、システムは完全にオフになり、前回設定したクルージングスピードが消去されます。再開機能は、新しくクルージングスピードを設定するまで使用できません。

クルーズコントロールシステムの自動停止

このモデルのクルーズコントロールシステムは電子制御されており、その他のコントロールシステムとリンクされています。クルーズコントロールシステムは、以下の条件で自動的に停止します。

- クルーズコントロールシステムが、設定したクルージングスピードを維持できない場合。
- ホイールのスリップまたはホイールのスピンが検出された場合。（トラクションコントロールシステムをオフにしていない場合は、トラクションコントロールシステムが作動します。）

- スターター／エンジンストップスイッチを“”にした場合。

- エンジンがストールした場合。

- サイドスタンドが下げられた場合。

設定したクルージングスピードで走行中に、クルーズコントロールシステムが上記の条件で停止した場合、クルーズコントロールシステム表示灯“”は消灯し、クルーズコントロール設定表示灯“SET”は4秒間点滅してから消灯します。

設定したクルージングスピードで走行していない場合は、スターター／エンジンストップスイッチを“”位置に設定すると、エンジンがストールするほか、サイドスタンドが下げられると、クルーズコントロールシステム表示灯“”が消灯します（クルーズコントロール設定表示灯“SET”は点滅しません）。クルーズコントロールシステムが自動的に停止した場合は、停車してから車両が運転に適した状態であることを確認してください。クルーズコントロールシステムは、電源スイッチを使用して作動させてから再度使用してください。

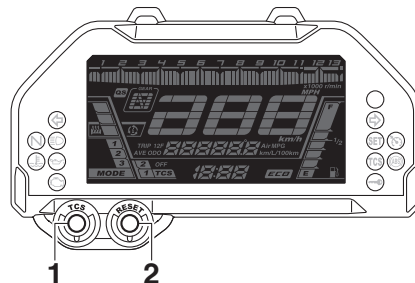
要 点

上り坂または下り坂を走行する際、クルーズコントロールシステムは場合により、設定したクルージングスピードを維持できない可能性があります。

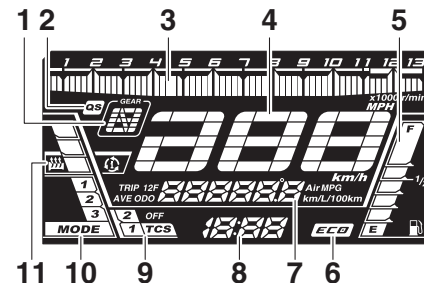
各部の取り扱いと操作

- 上り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを下回る可能性があります。この場合は、スロットルを使用して必要な走行スピードまで加速してください。
- 下り坂を走行する場合、実際の走行スピードは設定したクルージングスピードを上回る可能性があります。この場合、設定スイッチを使用して設定済のクルージングスピードを調整することはできません。減速するにはフロントブレーキまたはリヤブレーキをかけます。ブレーキをかけると、クルーズコントロールシステムは停止します。

マルチファンクションメーター



1. “TCS” ボタン
2. “RESET” ボタン



1. ギヤポジション表示
2. クイックシフトシステム表示
3. タコメーター
4. スピードメーター
5. 燃料計
6. エコ表示
7. マルチファンクションディスプレイ
8. 時計
9. トラクションコントロールシステム表示
10. ドライブモード表示
11. グリップウォーマー表示

警告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションメーターには以下の機能があります。

- スピードメーター
- タコメーター

各部の取り扱いと操作

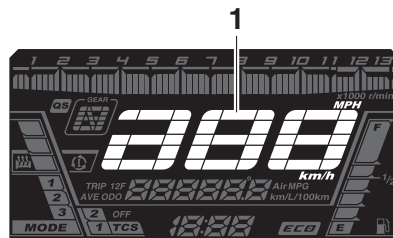
3

- 時計
- 燃料計
- エコ表示
- ギャポジション表示
- ドライブモード表示
- トラクションコントロールシステム表示
- クイックシフトシステム表示
- グリップウォーマー表示
- マルチファンクションディスプレイ
- メーターとシフトタイミングランプの明るさ調節表示

要 点

- メーターは、キロメートル単位かマイル単位に設定することができます。マルチファンクションディスプレイにオドメーターを表示させ、“RESET” ボタンを 1 秒間押すことで、キロメートル単位かマイル単位に切り替えることができます。
- 走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

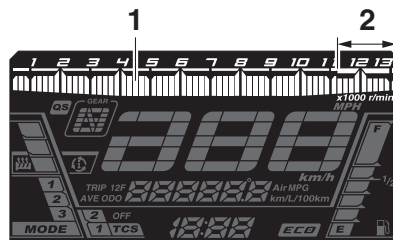
スピードメーター



1. スピードメーター

車の速度を示します。

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

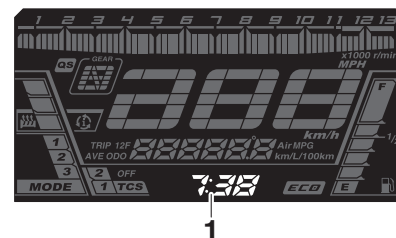
毎分のエンジン回転数を示します。

注 意

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。

レッドゾーン: 11200 r/min 以上

時計



1. 時計

この時計は 12 時間表示です。

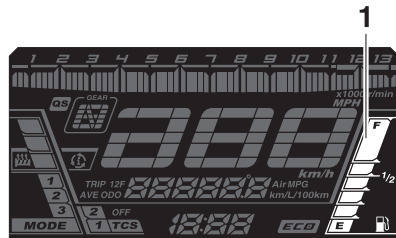
時刻調整のしかた

1. 車両の電源をオンにします。
2. “MENU” スイッチを 1 秒間押すと、＜時＞の表示が点滅します。
3. “SELECT” スイッチの上または下を押して＜時＞を合わせます。
4. “MENU” スイッチを押すと、＜分＞の表示が点滅します。
5. “SELECT” スイッチの上または下を押して＜分＞を合わせます。

各部の取り扱いと操作

6. “MENU” スイッチを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

燃料計



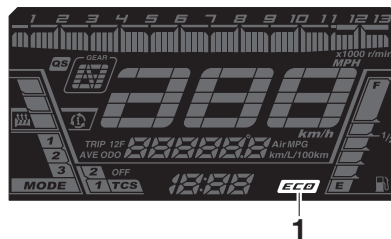
1. 燃料計

フューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントが“F”（満）から“E”（空）方向に消えていきます。残量が約 4.0 L になると、最後のセグメントが点滅を始めます。早めに補給してください。

要 点

電気回路に異常が検出された場合、燃料計の全てのセグメントが点滅を繰り返します。この場合は、ヤマハ販売店に車両の点検を依頼してください。

エコ表示



1. エコ表示

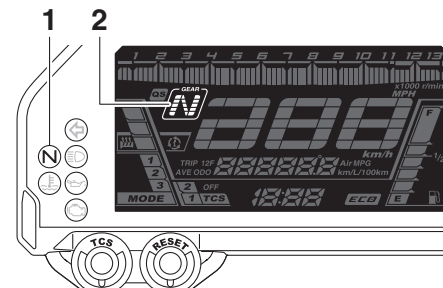
この表示は、環境にやさしく、燃費の良い状態で車両を運転している場合に点灯します。車両が停止すると表示は消灯します。

要 点

燃費を抑えるためには、次のことを心がけて運転してください。

- 加速中にエンジン回転数を高くしない。
- 一定の速度で走行する。
- 速度に適したギヤを選択する。

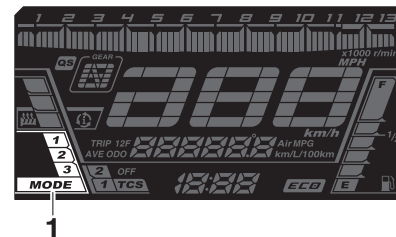
ギヤポジション表示



1. ニュートラルランプ “N”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“N”を表示し、ニュートラルランプが点灯します。

ドライブモード表示



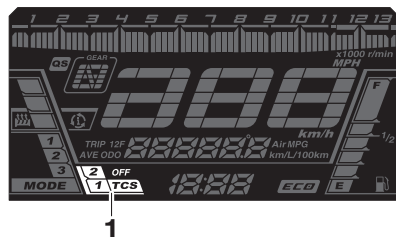
1. ドライブモード表示

各部の取り扱いと操作

“1”、“2”または“3”のうち、選択されたドライブモードを表示します。ドライブモードや設定についての詳細は、3-18 ページを参照してください。

3

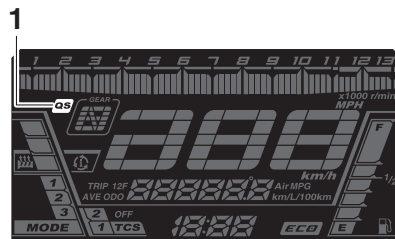
トラクションコントロールシステム表示



1. トラクションコントロールシステム表示

“1”、“2”または“OFF”のうち、選択されたトラクションコントロールシステムのモードを表示します。トラクションコントロールシステムや設定についての詳細は、3-20 ページを参照してください。

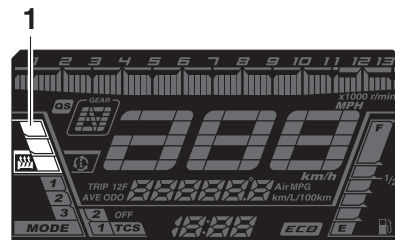
クイックシフトシステム表示



1. クイックシフトシステム表示

クイックシフトシステム (3-19 ページ) が作動すると、この表示が点灯します。

グリップウォーマー表示



1. グリップウォーマー表示

グリップウォーマーは、エンジン回転中のみ使用できます。グリップウォーマー設定は4種類、10段階あります。

表示	設定
	オフ
	低
	中
	高

グリップウォーマー設定の変更

1. 車両の電源をオンにします。
2. “MENU” スイッチを押し、グリップウォーマー表示を選択します。①が消灯します。
3. “SELECT”スイッチの上または下を押して設定レベルを変更します。
4. “MENU” スイッチを押します。

要 点

変更された設定は、車両の電源がオフになっても記憶されます。

JCA17932

注 意

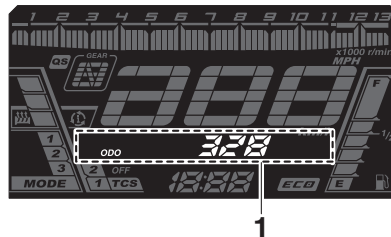
- グリップウォーマーを使用するときは、必ずグローブを着用してください。
- 気候が暖かいときにグリップウォーマーを使用しないでください。

- ハンドルバーグリップまたはスロットルグリップが摩耗したり破損したりした場合は、グリップウォーマーの使用を止め、グリップを交換してください。

グリップウォーマー温度レベルの設定

1. 車両の電源をオンにします。
2. “MENU” スイッチを押してグリップウォーマー表示を選択します。①が消灯します。
3. “MENU” スイッチを 1 秒間押すと、グリップウォーマー表示とマルチファンクションディスプレイが点滅を始めます。
4. “MENU” スイッチを押して設定レベルを変更します。
5. “SELECT” スイッチの上または下を押して温度レベルを設定します。
6. “MENU” スイッチを 1 秒間押します。

マルチファンクションディスプレイ



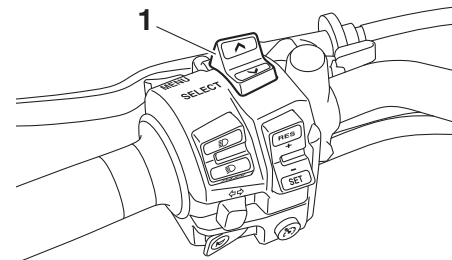
1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1/TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- 瞬間燃費表示
- 平均燃費表示
- 水温表示
- 気温表示

要 点

- オドメーターは、最大値 (999999 km) を超えると最大値で固定されます。
- トリップメーターは、最大値 (9999.9km) を超えるとリセットされ、計測を継続します。



1. “SELECT” スイッチ

“SELECT” スイッチを押すごとに、オドメーター“ODO”、トリップメーター“TRIP 1”、“TRIP 2”、瞬間燃費表示 “km/L” または “L/100 km”、平均燃費表示 “AVE --- km/L” または “AVE --- L/100 km”、水温表示 “°C”、気温表示 “°C Air” が切り替わります。“^”を押したとき、下記の順で表示が切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → km/LまたはL/100 km → AVE --- km/L または AVE --- L/100 km → °C (水温) → °C Air (気温) → ODO

燃料計の残りの 1 セグメントが点滅を始めると、表示は自動的にフューエルトリップメーター“TRIP F”に切り替わり、その時点からの走行距離を表示します。このとき“^”を押すと、下記の順で表示が切り替わります。

各部の取り扱いと操作

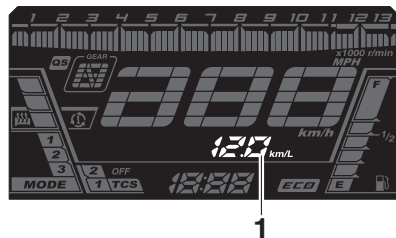
TRIP F → km/L または L/100 km → AVE --- km/L または AVE --- L/100 km → °C (水温)
→ °C Air (気温) → ODO → TRIP 1 → TRIP 2
→ TRIP F

3

要 点

- “✓”を押すと、逆順で表示が切り替わります。
- トリップメーターをリセットするには、“RESET” ボタンを1秒間押します。
- フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされて表示されなくなります。
- “MPG” と “AVE --- MPG” はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

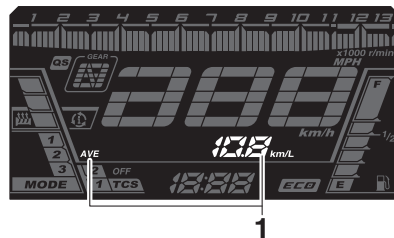
瞬間燃費の表示は、“km/L” または “L/100 km” を表示することができます。

- “km/L”: 現在の走行条件で燃料 1.0 L を使って走行可能な距離が表示されます。
- “L/100 km”: 現在の走行条件で 100 km 走行するために必要な燃料の量が表示されます。

要 点

- “km/L” 表示と “L/100 km” 表示を切り替えるには、“RESET” ボタンを1秒間押します。
- 表示切替時に “MPG” が表示されますが、これはマイル表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。
- 10 km/h 未満の速度で走行している場合は、“---” と表示されます。

平均燃費表示



1. 平均燃費表示

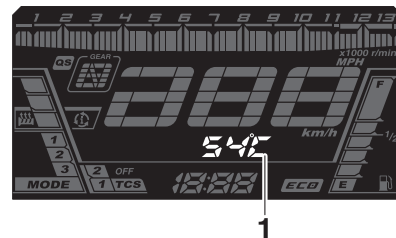
平均燃費の表示は、“AVE --- km/L” または “AVE --- L/100 km” を表示することができます。

- “AVE --- km/L”: 燃料 1.0 L を使って走行可能な平均距離が表示されます。
- “AVE --- L/100 km”: 100 km 走行するために必要な燃料の平均量が表示されます。

要 点

- 平均燃費表示をリセットするには、“RESET” ボタンを1秒間押します。
- 平均燃費表示のリセット後は、車両が所定の距離を走行するまで “---” と表示されます。
- この表示では “km/L” と “L/100 km” の切り替えができないため、瞬間燃費表示で切り替えてください。

水温表示



1. 水温表示

各部の取り扱いと操作

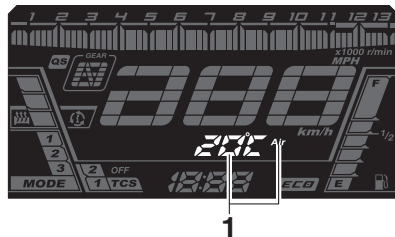
40 °C から 124 °C の水温を 1 °C 刻みで表示します。

“Hi” が点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

要 点

- 水温が 40 °C 未満の場合、“Lo”が表示されます。
- 水温は、気象条件およびエンジン負荷により変化します。

気温表示



1. 気温表示

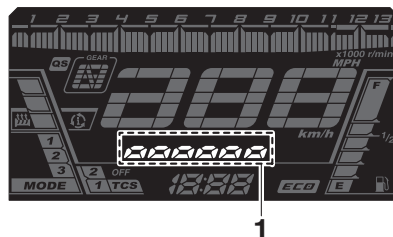
-9 °C から 50 °C の気温を 1 °C 刻みで表示します。

要 点

- 気温が -9 °C を下回った場合にも、-9 °C と表示されます。

- 気温表示は、実際の外気温度と異なる場合があります。

メーターの明るさ調節とシフトタイミングランプの設定



1. 明るさ調節表示

このモードでは 5 つの制御機能が以下の順序で切り替わります。

- メーターの明るさ調節
- シフトタイミングランプ作動設定
- シフトタイミングランプ点灯設定
- シフトタイミングランプ消灯設定
- シフトタイミングランプ明るさ調節

要 点

明るさ調節表示は、設定された明るさをセグメントの数で表示します。調節中、メーターやシフトタイミングランプの明るさも変化します。

メーターの明るさ調節

1. メインスイッチを“OFF”にします。
2. “MENU”スイッチを押し続けます。
3. メインスイッチを“ON”にして、5 秒後に“MENU”スイッチをはなします。
4. “SELECT”スイッチの上または下を押し、明るさを調節します。
5. “MENU”スイッチを押すと選択した明るさが決定され、シフトタイミングランプ作動設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ作動設定

1. “SELECT”スイッチの上または下を押して、次の作動設定の中から 1 つを選択します。
 - シフトタイミングランプが作動したときに点灯させる。(シフトタイミングランプが点灯している状態にします。)
 - シフトタイミングランプが作動したときに点滅させる。(シフトタイミングランプが 1 秒間に 4 回点滅している状態にします。)
 - シフトタイミングランプを作動させない。(シフトタイミングランプが 2 秒間に 1 回点滅している状態にします。)
2. “MENU”スイッチを押すと作動設定が決定され、シフトタイミングランプ点灯設定に切り替わります。

各部の取り扱いと操作

3

シフトタイミングランプ点灯設定

シフトタイミングランプの点灯時期は、エンジン回転数が 6000 ～ 12000 r/min の間で設定できます。また、点灯時期は 200 r/min きざみで設定することができます。

1. “SELECT”スイッチの上または下を押して、シフトタイミングランプを点灯または点滅させたいエンジン回転数を選択します。
2. “MENU” スイッチを押すと点灯設定が決定され、シフトタイミングランプ消灯設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ消灯設定

シフトタイミングランプの消灯時期は、エンジン回転数が 6000 ～ 12000 r/min の間で設定できます。また、消灯時期は 200 r/min きざみで設定することができます。なお、消灯時期は点灯時期よりも高いエンジン回転数で設定してください。消灯設定の回転数が点灯設定の回転数より低いと、シフトタイミングランプは点灯も点滅もしません。

1. “SELECT”スイッチの上または下を押して、シフトタイミングランプを消灯させたいエンジン回転数を選択します。
2. “MENU” スイッチを押すと消灯設定が決定され、シフトタイミングランプ明るさ設定に切り替わります。

シフトタイミングランプ明るさ設定

1. “SELECT”スイッチの上または下を押して、シフトタイミングランプの明るさを設定します。

2. “MENU” スイッチを押すと明るさが決定され、調節表示が終了します。

JAU12333

盗難警報器（別売アクセサリ）

この車には、別売アクセサリの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の取り扱いと操作

JAU84321

D-mode (ドライブモード)

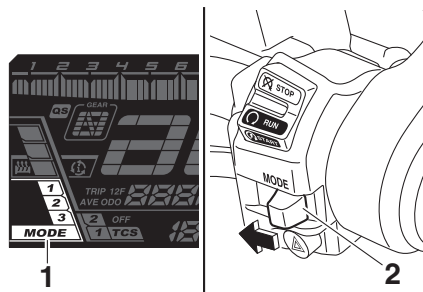
D-mode は、電子制御による走行モードを選択できるシステムです。

JAU84550

JWA15341

警告

走行中はドライブモードスイッチを操作しないでください。



1. ドライブモード表示
2. ドライブモードスイッチ "MODE"

スロットルを閉じ、ドライブモードスイッチ "MODE" を押すと、ドライブモードが切り替わります。

モード 3

このモードは、モード 2 に対して、より繊細なスロットル操作が必要な状況などで穏やかなレスポンスを発揮するモードです。

モード 2

このモードは、さまざまな走行条件に適したモードです。
スムーズでスポーティな走行フィーリングが、低速から高速まで楽しめるモードです。

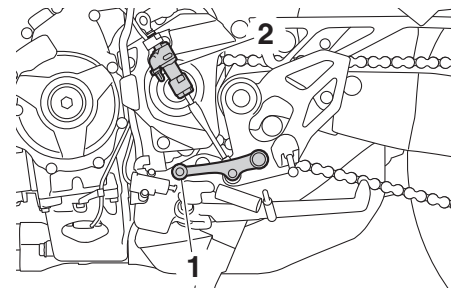
モード 1

このモードは、モード 2 に対して、よりスポーティなエンジンレスポンスを低中速域で楽しめるモードです。

要 点

選択されたモードは、車両の電源がオフになっても記憶されます。

シフトペダル



1. シフトペダル
2. シフトスイッチ

シフトペダルは車両の左側にあります。シフトアップするには、シフトペダルを上に動かし、シフトダウンするには、シフトペダルを下に動かします。(5-2 ページ参照)

要 点

クイックシフトシステムがオンのとき、シフトスイッチがシフトペダルの動きを検知して自動的にクラッチの断続を行うため、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップが可能です。

各部の取り扱いと操作

JAU84560

クイックシフトシステム

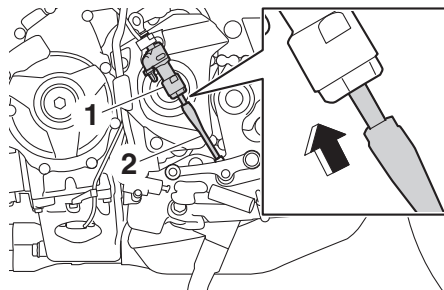
クイックシフトシステム (QS) は電子制御によりスロットルを閉じず、クラッチレバーを操作しなくてもシフトアップを可能にするシステムです。シフトスイッチがシフトペダルの操作を感知すると、エンジン出力や駆動力が一瞬で自動調整されてシフトアップが可能となります。

要 点

- QS は、車の速度が 20 km/h 以上でエンジン回転数が 4000 r/min 以上、かつ加速中の場合のみ作動します。
- クラッチレバーを操作した場合、QS は作動しません。

システムの止めかた

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シフトスイッチが作動するようにシフトペダルを上げ、その状態のままにします。



1. シフトスイッチ
2. ロッド

3. メインスイッチを ON にし、10 秒後シフトペダルをはなします。
4. “**qs**” が消灯します。

要 点

QS を作動させるには、同じ手順を行います。

ABS

JAU84570

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、フロントブレーキとリヤブレーキで、それぞれ独立して働きます。

JWA15363

警告

- **ABS** は制動距離を短くする装置ではありません。
- 未舗装路や砂利道など路面の状況により、**ABS** のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を充分にとってください。

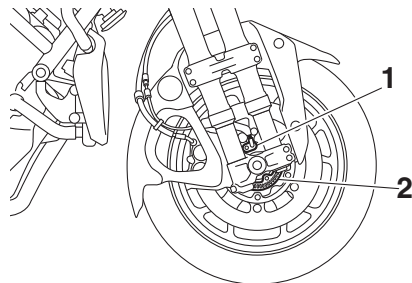
ブレーキの使いかた

通常のブレーキと同様に、ブレーキレバーとブレーキペダルを操作します。ブレーキをかけたとき、ホイールスリップが検知されると **ABS** が作動し、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じます。そのままブレーキをかけ続けてください。制動距離が伸びるため、ブレーキを握ったり放したりしないでください。

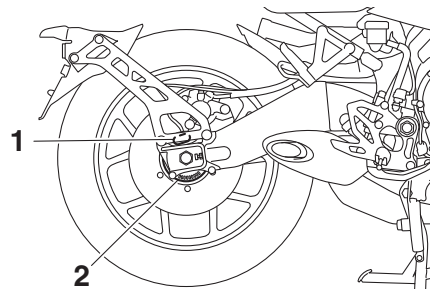
- エンジン始動後、走行を始めたときに **ABS** は自己診断を行います。この間にハイドロリックユニットからカチカチ音が聞こえたり、ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じたりしますが、故障ではありません。
- **ABS** が故障すると、通常のブレーキシシステムとなります。

注意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

JCA20100

トラクションコントロールシステム

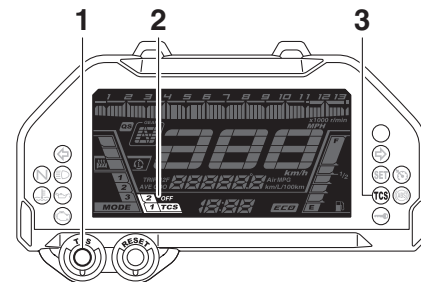
JAU76317

トラクションコントロールシステム (TCS) は、未舗装または濡れた道路のような滑りやすい路面で加速するとき、加速時の駆動力を効率良く路面に伝達する働きをします。

JWA15433

警告

トラクションコントロールシステムは、道路の状況に合わせた適切な走行をするための機能ではありません。またトラクションコントロールシステムは、スピードが出過ぎたまま曲がり角に進入するときや、車体を大きく傾斜させた状態での急な加速、ブレーキ中に起こるトラクションの低下やフロントホイールのスリップを防ぐことができません。他の車と同じように、滑りやすい路面に進入するときは注意して走行し、特に滑りやすい路面の走行はやめてください。



1. “TCS” ボタン
2. トラクションコントロールシステム表示
3. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

トラクションコントロールが作動すると、“TCS” 表示灯が点滅します。また、エンジン音や排気音がわずかに変化することがあります。

トラクションコントロールが停止すると、“TCS” 表示灯が点灯します。

トラクションコントロールシステム表示 (3-13 ページ参照) は、現在の TCS の設定を示します。TCS の設定には、以下の 3 つがあります。

TCS “OFF”: トラクションコントロールシステムは OFF になっています。

TCS “1”: トラクションコントロールシステムの効果が最小になっています。

TCS “2”: トラクションコントロールシステムの効果が最大になっています。タイヤの空転が最も強力に制御されます。

各部の取り扱いと操作

要 点

- 車両の電源をオンにすると、最後に設定されていた TCS “1” または TCS “2” の設定にセットされます。
- 車両が泥や砂などの軟らかい地面にはまったとき、トラクションコントロールシステムを “OFF” にすると、抜け出しやすくなる場合があります。

JCA16801

注 意

必ず指定タイヤを使用してください。(6-7 ページ参照) 指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムはタイヤの回転を正確に制御することができません。

トラクションコントロールシステムの設定

JWA15441

警告

トラクションコントロールシステムの設定を変更する前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定を変更すると、運転に集中できなくなり、事故のリスクを増加させる可能性があります。

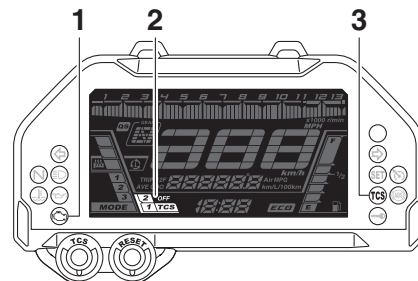
トラクションコントロールシステムは、停車してスロットルを閉じているときにのみ切り替えられます。

- “TCS” ボタンを押すとトラクションコントロールシステムの設定 “1” と “2” が切り替えることができます。
- ボタンを 2 秒以上押すと、トラクションコントロールシステムを “OFF” にできます。
- ボタンを再度押すと、最後に設定されていた TCS “1” または TCS “2” の設定にセットされます。

トラクションコントロールシステムの自動解除とリセット

以下になった場合、トラクションコントロールシステムは自動的に解除されます。

- 乗車中に車輪が地面から離れたとき
 - 乗車中に後輪の過度な空転が検知されたとき
 - 整備の際など、車両の電源がオンの状態で外力によってどちらかの車輪が回転したとき
- トラクションコントロールシステムが解除されると、“TCS” 表示灯と “” 警告灯の両方が点灯します。



1. エンジン警告灯 “”
2. トラクションコントロールシステム表示
3. トラクションコントロールシステム表示灯 “TCS”

この場合、次のようにしてリセットしてください。

1. 車を止め、車両の電源をオフにします。
2. 2 ～ 3 秒待ってから、車両の電源を再びオンにします。
3. “TCS” 表示灯が消灯し、システムが有効になります。

要 点

リセット操作後も “TCS” 表示灯が点灯したままの場合、乗車は可能ですが、できるだけ早くヤマハ販売店で点検を受けてください。

4. ヤマハ販売店に点検と “” 警告灯の消灯を依頼します。

フューエルタンクキャップ

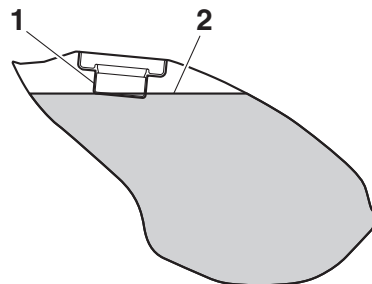
JAU13077

JWA12172

警告

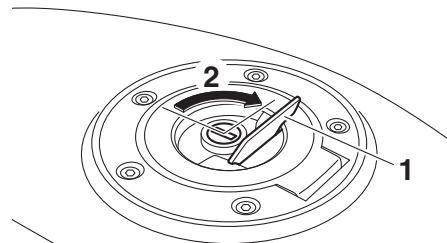
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることができません。

各部の取り扱いと操作

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28333

3

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 18 L

注意

JCA12512

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

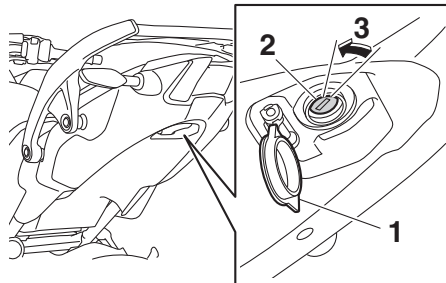
シート

JAU84580

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. シートロックカバーを開いてキーをシートロックに差し込み、キーを反時計方向に回してロックを解除します。

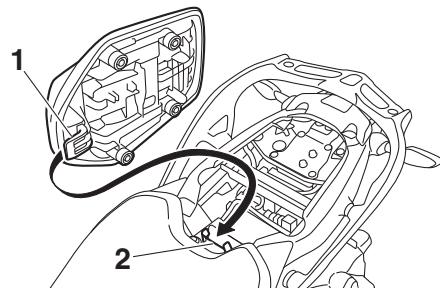


1. シートロックカバー
2. シートロック
3. 解除

2. タンデムシートの後部を持ち上げ、後方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. タンデムシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込んでから、タンデムシートの後部を押し下げてタンデムシートをロックします。

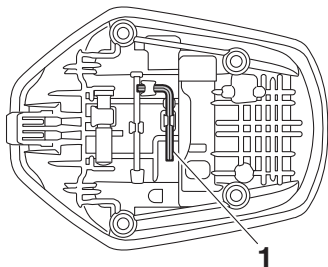


1. 突起
 2. シートホルダー
2. キーを抜き取ります。

ライダーシート

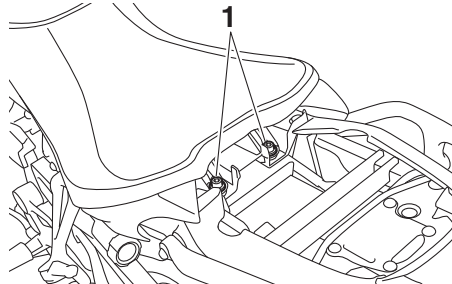
ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外してから、タンデムシートの裏側にある六角レンチを取り外します。



1. 六角レンチ

- 六角レンチを使用して、ボルトを取り外します。

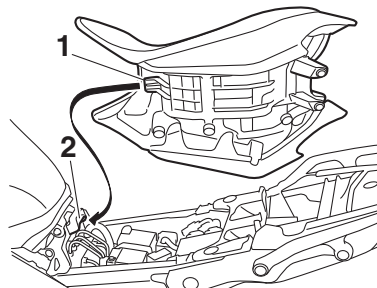


1. ボルト

- ライダーシートの後部を持ち上げ、後方にずらしながらライダーシートを取り外します。

ライダーシートの取り付けかた

- 図のようにして、ライダーシート前部の突起をシートホルダーに差し込んでから、シートを元の位置に戻します。



- 突起
- シートホルダー

- 六角レンチを使用してボルトを締め付けます。
- 六角レンチをタンデムシートの裏側に戻します。
- タンデムシートを取り付けます。

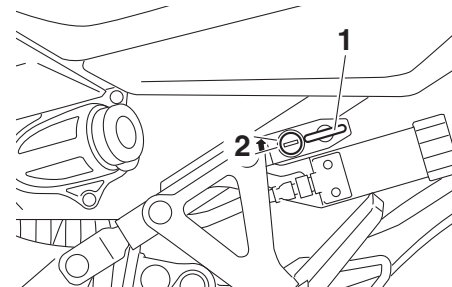
要 点

走行前に、必ずシートが確実にロックされていることを確認してください。

ヘルメットホルダー

ヘルメットは車体左側のヘルメットホルダーと、タンデムシート裏の2箇所に掛けることができます。

ヘルメットの掛けかた（車体左側）



- ヘルメットホルダー
- 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひものバックル部分を掛けてロックします。

ヘルメットの外しかた（車体左側）

キーでロックを解除してヘルメットを取り外し、ロックします。

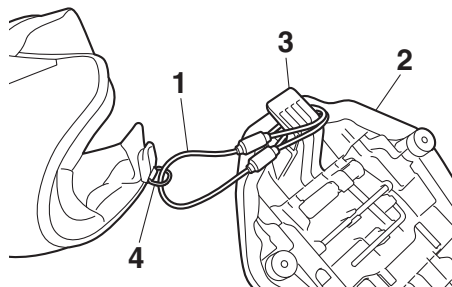
要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

各部の取り扱いと操作

ヘルメットの掛けかた（タンデムシート裏）

1. タンデムシートを取り外します。
2. ポーチを取り出し、ヘルメットホールディングケーブルを取り出します。



1. ヘルメットホールディングケーブル
 2. タンデムシート
 3. 突起
 4. あごひものバックル部分
3. ケーブルをあごひものバックル部分に通します。
 4. ケーブルの端をタンデムシートの突起に掛けます。
 5. タンデムシートを取り付けます。

ヘルメットの外しかた（タンデムシート裏）

タンデムシートを取り外し、ヘルメットホールディングケーブルを外した後、タンデムシートを取り付けます。

JWA11651

JAU62411

警告

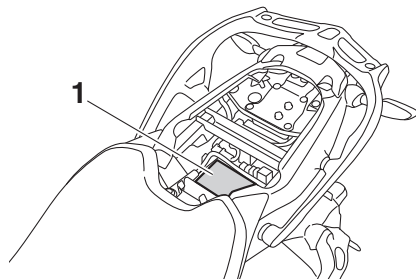
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（3-23 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにして小物入れに保管してください。

小物入れ

JAU14465



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。
(3-23 ページ参照)

JWA12431

警告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 1.5 kg を越えないでください。

JCA12972

注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をするときに水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。

- 貴重品やこわれやすい物は入れないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。

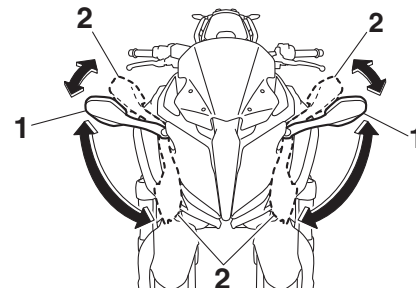
要 点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

バックミラー

JAU39672

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置
2. 駐車するときの位置

JWA14372

警告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

各部の取り扱いと操作

フロントフォークの調整

JAU84601

JWA10181

⚠ 警告

左右のフォークは同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

フロントフォークには、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JCA10102

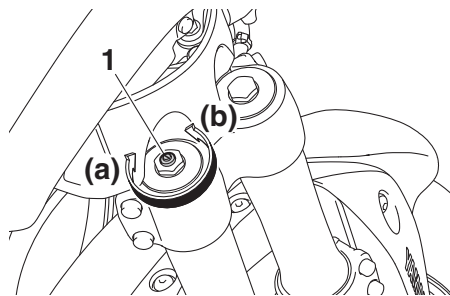
注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

- 最小（ソフト）：
(b) 方向へ 17 段
- 標準：
(b) 方向へ 13 段
- 最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

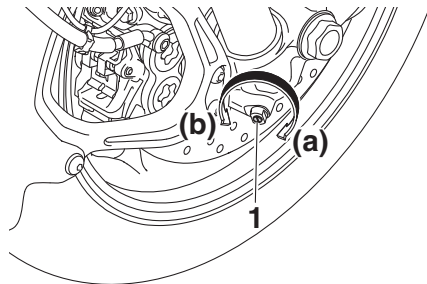
要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

圧側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、圧側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

- 最小（ソフト）：
(b) 方向へ 13 段
- 標準：
(b) 方向へ 8 段
- 最大（ハード）：
(b) 方向へ 1 段

要 点

- アジャスターを (a) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。

- アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターと伸側減衰力アジャスターが装備されています。



シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

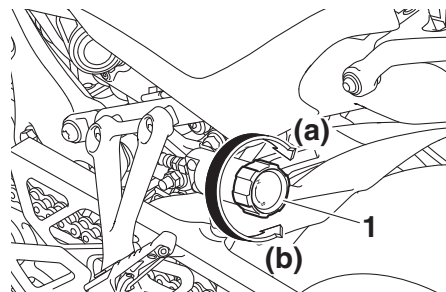
注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。

スプリングプリロードの調整は、アジャスターを (b) 方向に止まるまで回し、(a) 方向へ戻すクリック段数を数えて行います。



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

(a) 方向へ 0 段

標準：

(a) 方向へ 1 段

最大（ハード）：

(a) 方向へ 24 段

要 点

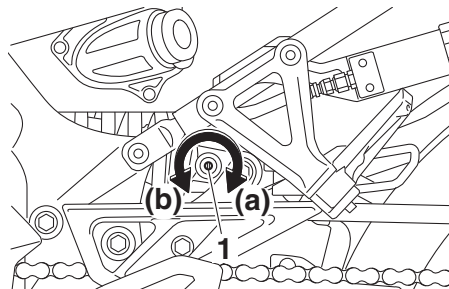
- アジャスターを (b) 方向に回すと、止まる位置と 1 段の位置が同じになることがあります。
- アジャスターを (a) 方向に回すと、調整範囲以上にも回りますが、スプリングプリロードに変化はありません。調整範囲内で使用してください。

各部の取り扱いと操作

伸側減衰力

減衰力アジャスターを (a) 方向に回すと、伸側減衰力が強くなり、(b) 方向に回すと弱くなります。

減衰力の調整は、アジャスターを (a) 方向に止まるまで回し、(b) 方向へ戻す回転数を数えて行います。



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

最小（ソフト）：

(b) 方向へ 2.8 回転

標準：

(b) 方向へ 1.25 回転

最大（ハード）：

(b) 方向へ 0 回転

要 点

アジャスターを (b) 方向に回すと、調整範囲以上に回りませんが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA10222

警告

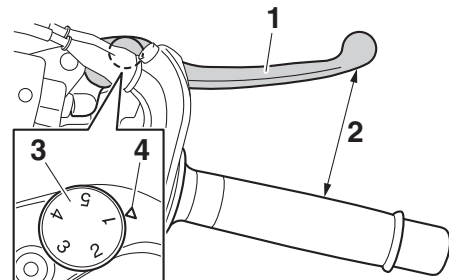
リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

ブレーキレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの握り幅が 5 段階に調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



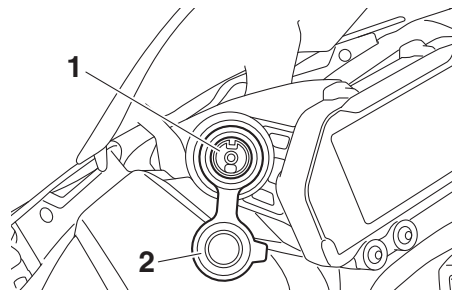
1. ブレーキレバー
2. 握り幅
3. アジャスター
4. 合マーク

要 点

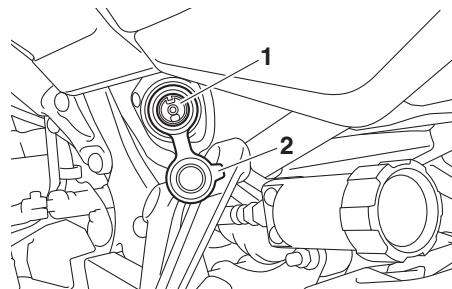
アジャスターの数字と合マークを、必ず合わせてください。

DC ジャック

JAU85720



1. DC ジャック
2. DC ジャックキャップ



1. DC ジャック
2. DC ジャックキャップ

DC ジャックは、スマートフォン充電器やその他のアクセサリに 12V の直流電流を供給します。

注意

エンジンが停止している状態で DC ジャックを使用しないでください。また、12 W (1.0 A) を超えるアクセサリを接続しないでください。バッテリーがあがったり、ヒューズが切れたりする可能性があります。

DC ジャックの使いかた

1. エンジンを始動します。(5-1 ページ参照)
2. アクセサリをオフにします。
3. DC ジャックキャップを取り外します。
4. アクセサリのプラグを DC ジャックに差し込みます。
5. アクセサリをオンにします。

要点

- アクセサリのプラグを差し込んだり、取り外したりするときは、アクセサリをオフにしてください。
- DC ジャックを使用していないときは、キャップを取り付けてください。

JWA14361

警告

感電または短絡を防止するため、DC ジャックを使用しない場合は、必ずキャップを取り付けてください。

JCA26610

サイドスタンド

JAU15306

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

JAU44905

イグニッションサーキットカット オフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要 点

- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。
- スイッチ操作については、3-2 ページ、3-3 ページを参照してください。

JWA11552

警 告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

エンジンが停止した状態で：
 1. メインスタンドを立てます。
 2. サイドスタンドを下ろします。
 3. エンジンストップスイッチをオンにします。
 4. メインスイッチをオンにします。
 5. ギヤをニュートラルに入れます。
 6. スタータースイッチを押します。
 エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
 すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
 7. サイドスタンドを上げます。
 8. クラッチレバーを握ります。
 9. ギヤを入れます。
 10. サイドスタンドを下ろします。
 エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
 すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
 11. サイドスタンドを上げます。
 12. クラッチレバーを握ります。
 13. スタータースイッチを押します。
 エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。
 すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは
 正常です。走行可能です。

日常点検

JAU1559A

JAU30142

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
 ならし運転中はエンジン回転数を 6700 r/min 以下で走行してください。
 また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
 ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU27665

エンジン始動

JAU54174

JWA11562

警告

- エンジンを始動するときには、3-31 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを ON にし、スターター／エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スターター／エンジンストップスイッチの“(⊕)”側を押して、エンジンを始動します。

要 点

スターター／エンジンストップスイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

運転操作

JAU3632

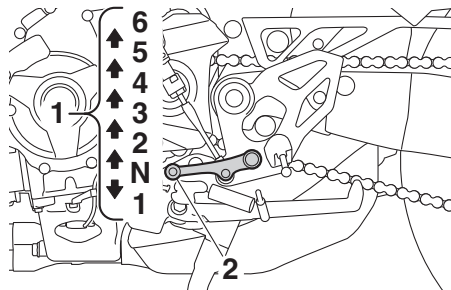
JAU84370

要 点

この車は、以下の機構を装備しています。

- 車両の電源がオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は車両の電源を一旦オフにして、再度オンにするリセット操作をしてください。この機構が働いたとき、エンジン警告灯が点灯しますが、故障ではありません。また、リセット操作を行うと、エンジン警告灯が消灯します。
- 車両が停止した状態で 20 分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要 点

- ニュートラル（N）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。
- この車はクイックシフトシステムを装備しています。（3-19 ページ参照）

JCA23990

注 意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。

- クイックシフトシステムでシフトアップしているときを除き、クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

- 1 速：0 km/h-90 km/h
- 2 速：20 km/h-120 km/h
- 3 速：25 km/h-150 km/h
- 4 速：30 km/h-175 km/h
- 5 速：35 km/h-180 km/h
- 6 速：40 km/h 以上

シフトダウン速度

- 6 速 → 5 速：165 km/h 以下
- 5 速 → 4 速：140 km/h 以下
- 4 速 → 3 速：120 km/h 以下
- 3 速 → 2 速：95 km/h 以下
- 2 速 → 1 速：70 km/h 以下

JWA20720



警告

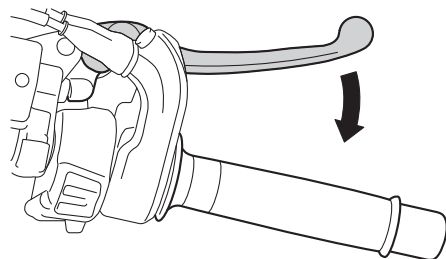
法定速度を守って走行してください。

ブレーキ

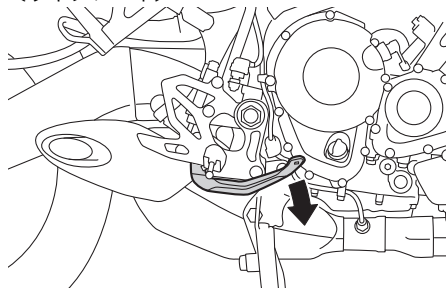
JAU33176

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリアブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リアブレーキ>



警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JWA11573

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

5

注意

JCA26500

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

点検整備

点検整備の実施

JAU129839

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

⚠ 警告

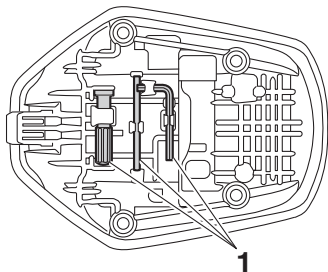
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU85230



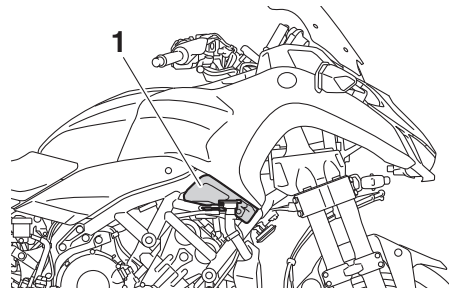
1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。

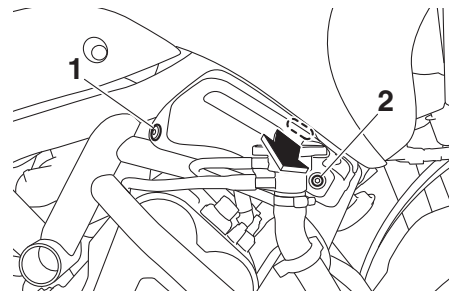
カバーの取り外し、取り付け

JAU18752

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A

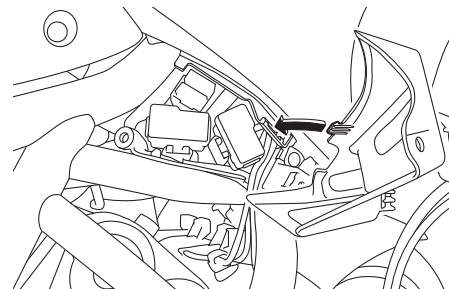


1. クイックファスナー
2. ボルト

2. 図のようにカバーを外側に引きだします。

カバーの取り付けかた

1. カバーを元の位置に取り付けます。



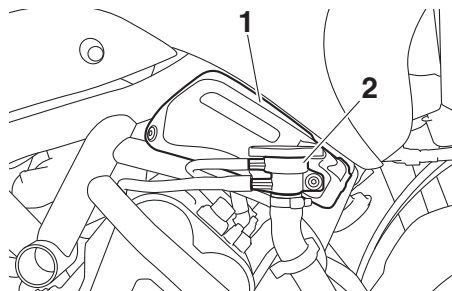
2. 図のようにラジエーターホースステーを元の位置に取り付けます。

カバー A

JAU84640

カバーの取り外しかた

1. クイックファスナーとボルトを取り外します。



1. カバー A
2. ステア

6

3. ボルトとクイックファスナーを取り付けます。

エンジンオイル

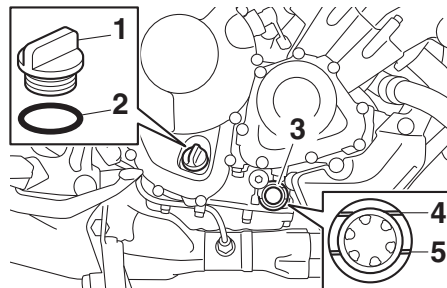
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

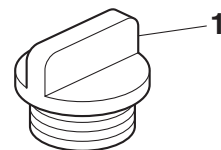


1. オイル注入口キャップ
2. Oリング
3. エンジンオイル点検窓
4. フルレベル
5. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)

要 点

Oリングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. Oリング

エンジンオイルの交換時期

JAU47504

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

10000 km 走行ごと、または 1 年ごと

エンジンオイル量：

オイル交換時：

2.40 L

オイルフィルター取り外し時：

2.70 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

30000 km 走行ごと

警告

JWA11861

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

注意

JCA12102

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルやマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

JAU30691

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

点検整備

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱい切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷がないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531



警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

点検します。このとき、エンジnstール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20071

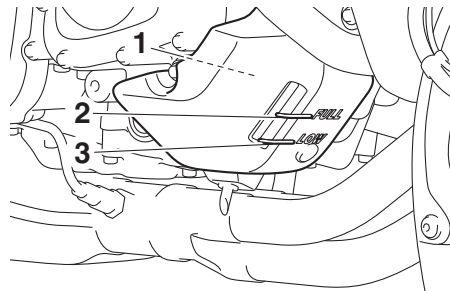
冷却水量の点検

JAU30723

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

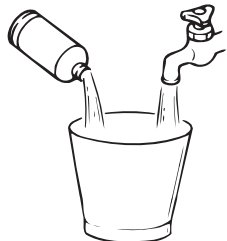


1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

冷却水のつくりかた

ヤマラップロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



JAU30805

注意

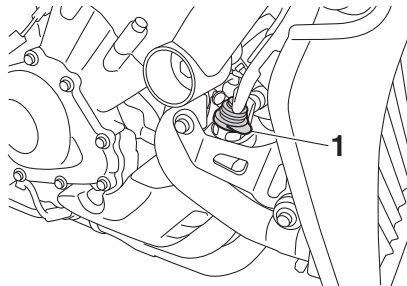
混ぜ合わせに使用する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

JCA12112

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルまで補充します。

JAU30812



1. リカバリータンクキャップ

JCA12121

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき
水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたとき
すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき
すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

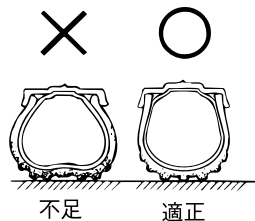
JWA11882

点検整備

JAU65360

タイヤ

空気圧



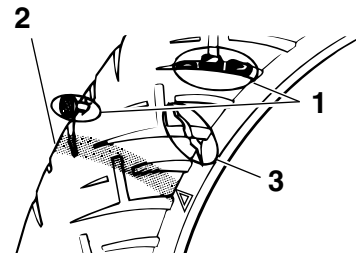
タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)



1. 異物（釘、石など）
2. ウエイインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウエイインジケーターで点検します。ウエイインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警告

- タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：
120/70 R 15 M/C 56V

後輪：
190/55 R 17 M/C 75V

指定タイヤ：

前輪：
BRIDGESTONE/A41F M

後輪：
BRIDGESTONE/A41R M

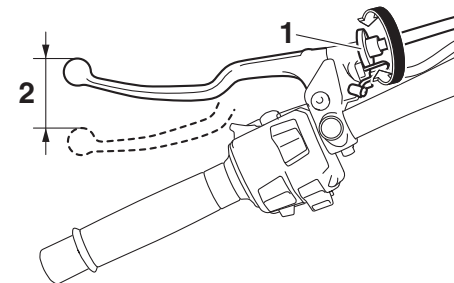
クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び

10.0–15.0 mm



1. アジャスター
2. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

JWA11841

警告

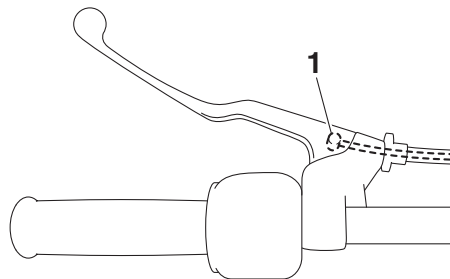
調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

点検整備

注意

1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。

JCA16283



1. ケーブル取り付け部

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31122

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキランプスイッチの点検

JAU36505

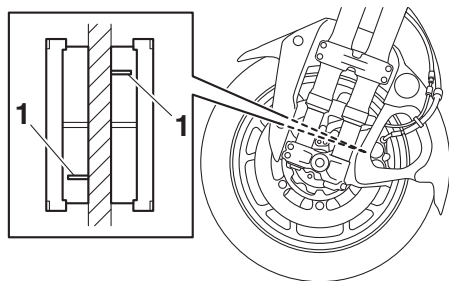
ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABSの構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキパッドの点検

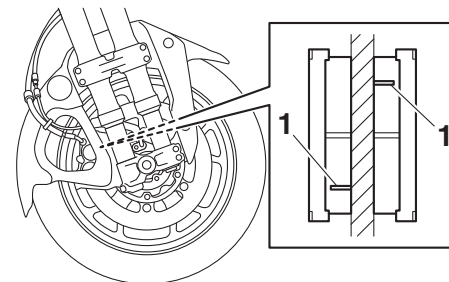
ブレーキパッドの損傷や摩耗の状態を点検します。摩耗したブレーキパッドは、ヤマハ販売店で交換してください。

<フロントブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター溝

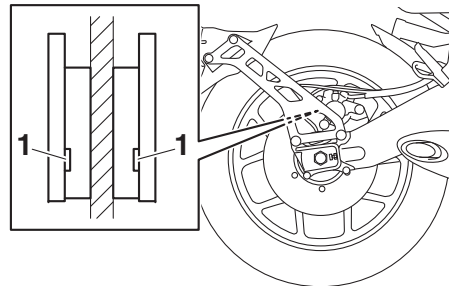


1. インジケーター溝

JAU85500

<リアブレーキ>

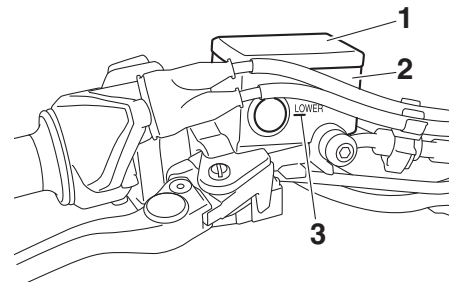
ブレーキパッドのインジケーター溝まで摩耗したら、ヤマハ販売店でブレーキパッドをセットで交換してください。



1. インジケーター溝

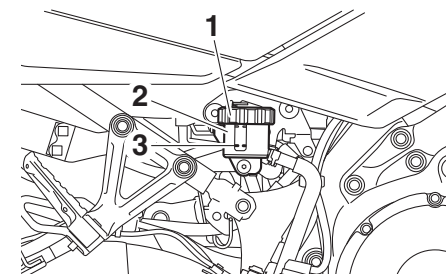
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

<リアブレーキ>



1. ブレーキリザーバタンクキャップ
2. リザーバタンク
3. ロアレベル

点検整備

ブレーキリザーバタンクキャップ上面を水平にして、リザーバタンク内の液量が口アレベル以上にあるかを点検します。液量が口アレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

警告

- ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

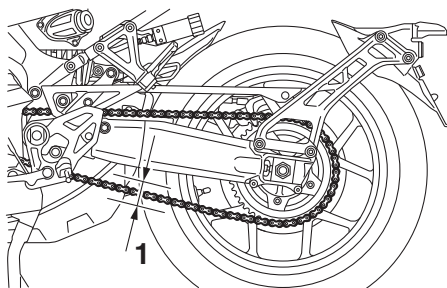
6

ドライブチェーン

JAU22762

ドライブチェーンの点検

JAU73551



1. ドライブチェーンのたわみ量

1. ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立てます。
2. 前後スプロケット間のチェーン中央部を上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
5.0-15.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。

注意

JCA17791

ドライブチェーンのたわみ量が 50.0 mm 以上の場合、走行しないでください。ドライブチェーンがリヤアームなどの部品に接触して損傷を与えることがあります。

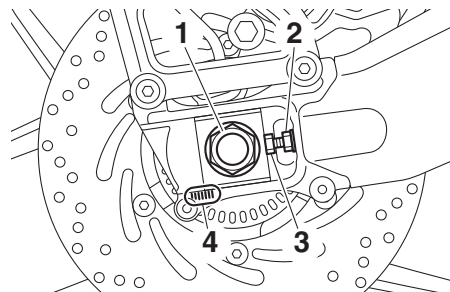
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

また、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU74260

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。



1. セルフロックングナット
2. ロックナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。

要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

セルフロックナット：
150 N・m (15 kgf・m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：

ロックナット：
16 N・m (1.6 kgf・m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

JAU23026

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマーループ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマーループ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

バッテリー

JAU28762

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

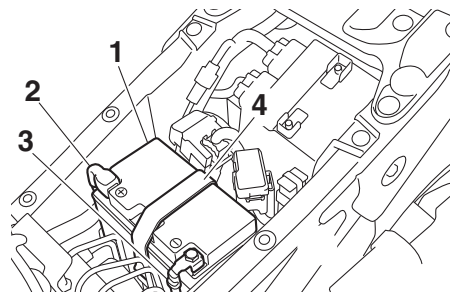
注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU85510

バッテリーの取り外し

1. ライダーシートを取り外します。(3-23 ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. + リード線
3. - リード線
4. バッテリーバンド

バッテリーの取り付け

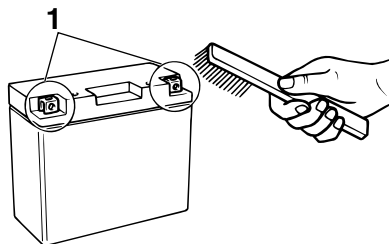
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

JAU84650

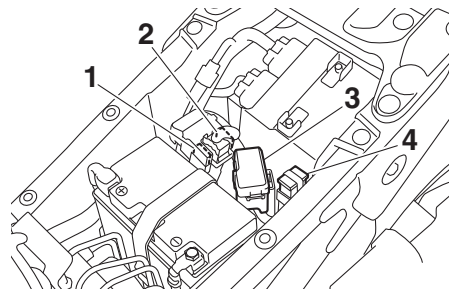


1. ターミナル

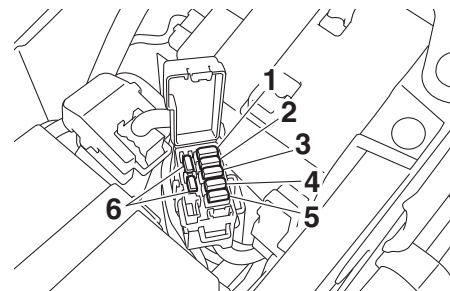
ヒューズ交換

ヒューズボックスと系統別ヒューズは、ライダーシートの下 (3-23 ページ参照) とカバー A を外したところにあります。(6-2 ページ参照)

ヒューズボックス 1 内のヒューズ、メインヒューズ、ABS モーターヒューズを交換する場合は、ライダーシートを外します。(3-23 ページ参照)



1. スペア ABS モーターヒューズ
2. ABS モーターヒューズ
3. ヒューズボックス 1
4. メインヒューズ



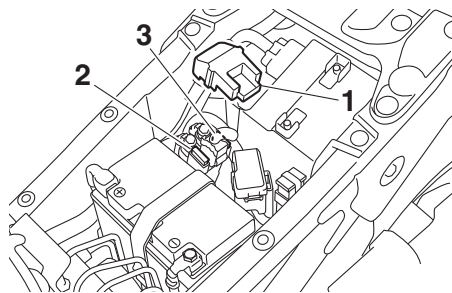
1. フューエルインジェクションヒューズ
2. ABS ソレノイドヒューズ
3. 電子制御スロットルバルブヒューズ
4. バックアップヒューズ (時計/イモビライザーシステム)
5. ヒーターヒューズ
6. スペアヒューズ

要 点

ABS モーターヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを上側に持ち上げて取り外します。

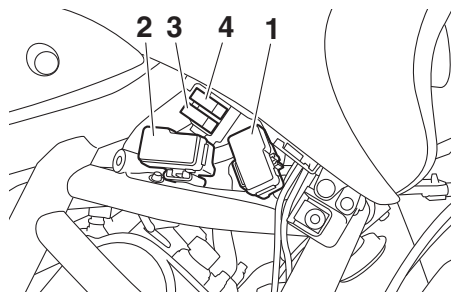
点検整備

6

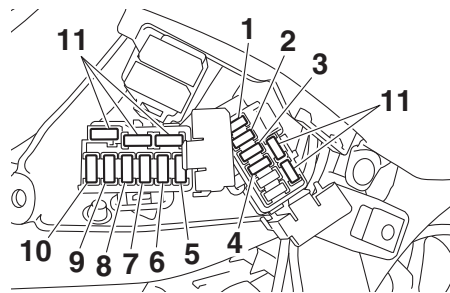


1. スターターリレーカバー
2. スペア ABS モーターヒューズ
3. ABS モーターヒューズ

ヒューズボックス 2 または ヒューズボックス 3 内のヒューズ、ブレーキランプヒューズ、クルーズコントロールヒューズを交換する場合は、カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)



1. ヒューズボックス 2
2. ヒューズボックス 3
3. クルーズコントロールヒューズ
4. ブレーキランプヒューズ



1. シグナルヒューズ
2. ABS コントロールユニットヒューズ
3. アクセサリーヒューズ
4. イグニッションヒューズ
5. ハザードヒューズ
6. DC ターミナルヒューズ 1 (DC ジャック)
7. DC ターミナルヒューズ 2 (DC ジャック)
8. ヘッドライトヒューズ
9. ラジエーターファンモーターヒューズ (右)
10. ラジエーターファンモーターヒューズ (左)
11. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

規定ヒューズ：

メイン：
50.0 A
ABS モーター：
30.0 A
クルーズコントロール：
1.0 A
ブレーキランプ：
1.0 A

規定ヒューズ（ヒューズボックス 2）：

シグナル：
7.5 A
ABS コントロールユニット：
5.0 A
アクセサリ：
5.0 A
イグニッション：
15.0 A

規定ヒューズ（ヒューズボックス 1）：

フューエルインジェクション：
25.0 A
ABS ソレノイド：
20.0 A
電子制御スロットルバルブ：
7.5 A
バックアップ：
7.5 A
ヒーター：
10.0 A

規定ヒューズ（ヒューズボックス 3）：

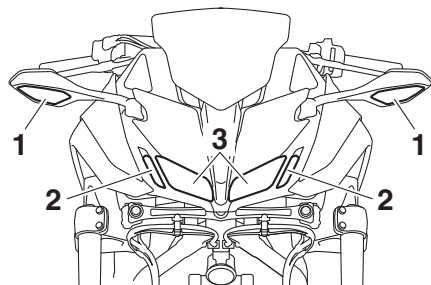
ハザード：
7.5 A
DC ターミナル 1：
2.0 A
DC ターミナル 2：
2.0 A
ヘッドライト：
10.0 A
ラジエーターファンモーター：
10.0 A × 2

3. メインスイッチを ON にし、ヒューズ交換した装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

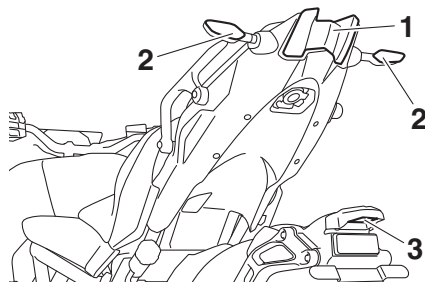
点検整備

灯火装置および方向指示灯の点検

JAU74911



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. ブレーキ/テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。

2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-14 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検整備を受けてください。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

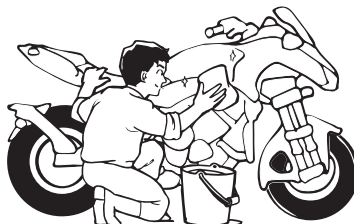
注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回

復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性

お車の手入れ

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

アルミフレーム、キャストホイールの取り扱い

JAU28001

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11961

警告

変形したり、損傷したアルミフレームやキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- 緑石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

ウインドシールドの取り扱い

JAU28051

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けであるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

警告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注 意

- ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。
- ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

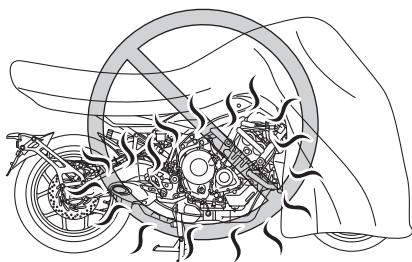
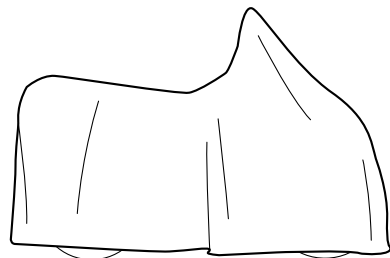
JAU35912

● 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。

● バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。

● 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。



JCA13111

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28115

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック

中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ

走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。

お車の手入れ

ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス

経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。

コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、

「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<https://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



寸法：	総排気量：	3 速：
全長：	845 cm ³	1.619 (34/21)
2150 mm	フロントブレーキ：	4 速：
全幅：	ブレーキ形式：	1.380 (29/21)
885 mm	油圧式ディスクブレーキ	5 速：
全高：	指定ブレーキフルード：	1.190 (25/21)
1425 mm	BF-4 (DOT-4)	6 速：
シート高：	リヤブレーキ：	1.037 (28/27)
835 mm	ブレーキ形式：	車体：
軸間距離：	油圧式シングルディスクブレーキ	トレッド：
1510 mm	指定ブレーキフルード：	410 mm
最低地上高：	BF-4 (DOT-4)	エレクトリカル：
150 mm	フロントタイヤ：	電圧：
重量：	種類：	12V
車両重量：	チューブレス	バルブワット数：
267 kg	サイズ：	ヘッドライト：
乗車定員：	120/70 R 15 M/C 56V	LED
2 名	メーカー / 銘柄：	ブレーキ / テールランプ：
性能：	BRIDGESTONE/A41F M	LED
最小回転半径：	リヤタイヤ：	方向指示灯（前）：
2.8 m	種類：	LED
エンジン：	チューブレス	方向指示灯（後）：
行程：	サイズ：	LED
4 ストローク	190/55 R 17 M/C 75V	番号灯：
冷却方式：	メーカー / 銘柄：	LED
水冷	BRIDGESTONE/A41R M	マーカーランプ：
動弁機構：	動力伝達機構：	LED
DOHC	1 速：	エンジンオイル：
配列：	2.666 (40/15)	推奨オイル：
直列	2 速：	ヤマルーブ プレミアムシンセティッ
気筒数：	2.000 (38/19)	ク、スポーツ、スタンダードプラス
3 気筒		

製品仕様

エンジンオイル量：

オイル交換時：

2.40 L

オイルフィルター取り外し時：

2.70 L

冷却水容量：

リザーブタンク（FULL レベルまで）：

0.25 L

ラジエーターと全ての経路：

1.93 L

バッテリー：

バッテリー型式：

YTZ10S

バッテリー容量：

12 V, 8.6 Ah (10 HR)

スパークプラグ：

メーカー / 型式：

NGK/MR9K9

プラグギャップ：

0.8–0.9 mm

二輪車を廃棄する場合は？

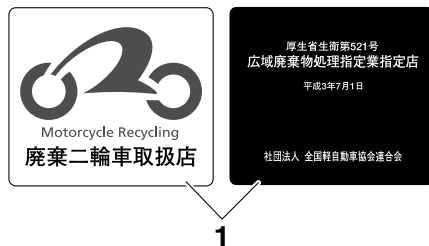
JAU36644

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

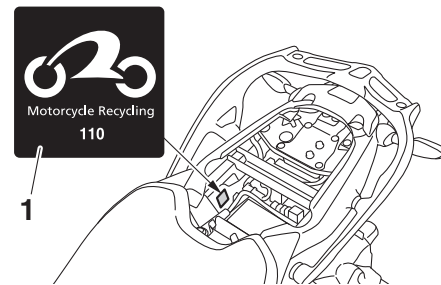
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株） 二輪車リサイクルシステム

<https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/>
公益財団法人 自動車リサイクル促進センターホームページ

<https://www.jarc.or.jp/motorcycle/>

ユーザー情報

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28393

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-B5B

車両情報

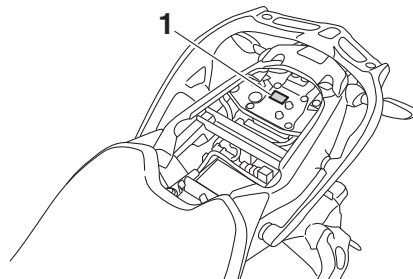
JAU28457

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、タンデムシート下に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

NIKEN GT

モデルラベル

製品仕様を示しています。

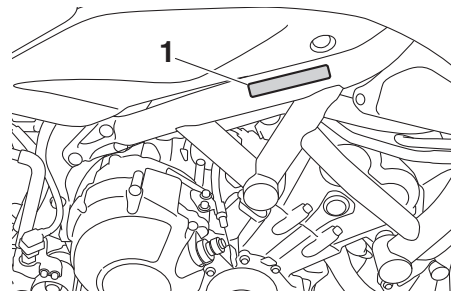
○

カラーリングを示しています。

●

JAU50501

車台番号



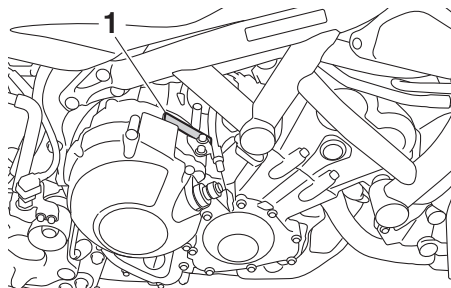
1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

原動機番号

JAU50511

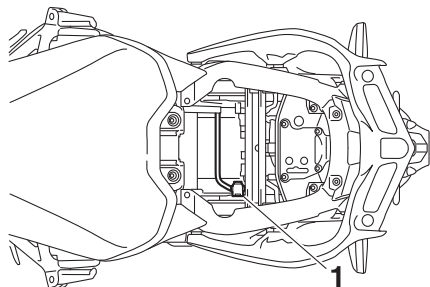


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

故障診断コネクタ

JAU73861



1. 故障診断コネクタ

この車には故障診断コネクタが搭載されています。

JAU74841

車両情報の記録に関して

この車両に搭載されているコンピューターは、故障診断や調査、開発を目的として、車両情報を記録しています。
記録された情報は、車両の点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、ヤマハに送信されます。

モデルによって異なりますが、記録される主な情報は次のとおりになります。

- 車両の状態やエンジンの使用状況
- 排気ガスに関する情報

記録された情報は、次の場合を除き第三者へ開示されることはありません。

- お客様の同意をいただいた場合
- 法的に求められた場合
- ヤマハが裁判で使用する場合
- 車両や個人を特定することなく、ヤマハが統計調査などに使用する場合

索引

あ

- あなた自身と同乗者のために 1-1
- アフターケア用品について 7-3
- アルミフレーム、
キャストホイールの取り扱い 7-2

い

- イグニッションサーキット
カットオフシステム 3-31
- イモビライザーシステム 3-1

う

- ウインドシールドの取り扱い 7-2
- 運行において異常が認められた
箇所の点検 6-17

え

- ABS 3-19
- エアクリーナーエレメントの交換 6-6
- エンジンオイル 6-3
- エンジン警告灯 3-6
- エンジン始動 5-1
- エンジンのかかり具合、
異音の点検 6-4

か

- カバーの取り外し、取り付け 6-2
- 環境・住民の方との調和のために 1-6

き

- キーの取り扱い 3-1
- ギヤチェンジのしかた 5-2

く

- クイックシフトシステム 3-19
- クラッチ 6-8
- クルーズコントロールシステム 3-7
- クルーズコントロールスイッチ 3-5

け

- 警告灯と表示灯 3-5
- 原動機番号 9-3

こ

- 故障診断コネクター 9-3
- 小物入れ 3-26

さ

- サービスツール 6-2
- サービスマニュアル（別売）の
紹介 9-2
- サイドスタンド 3-30

し

- シート 3-23
- シフトタイミングインジケーター
ランプ 3-7
- シフトペダル 3-18
- 車体各部の給油脂状態の点検 6-12
- 車台番号 9-2
- 車両情報 9-2
- 車両情報の記録に関して 9-3
- 書類入れ 3-25

す

- スターター／エンジンストップ
スイッチ 3-4

せ

- SELECT スイッチ 3-5
- 洗車 7-1

た

- タイヤ 6-7

ち

- 駐車 5-3

て

- DC ジャック 3-30
- 低速、加速の状態の点検 6-5
- D-mode（ドライブモード） 3-18
- 点検整備の実施 6-1

と

- 灯火装置および方向指示灯の点検 6-17
- 盗難警報器（別売アクセサリ） 3-17
- ドライブチェーン 6-11
- ドライブチェーンの給油 6-12
- トラクションコントロール
システム 3-20

な

- ならし運転 5-1

に

- 日常点検箇所／点検内容 4-1
- 日常点検の実施 4-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 9-1

ね

- 燃料 3-23

は

- ハザードスイッチ 3-4
- バックミラー 3-26
- バッテリー 6-13
- ハンドルスイッチ 3-3

ひ

- ヒューズの交換 6-14

ふ

- フューエルタンクキャップ 3-22
- ブレーキ 5-3
- ブレーキ液量の点検 6-10
- ブレーキパッドの点検 6-10

ブレーキランプスイッチの点検	6-9
ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検	6-9
ブレーキレバーの握り調整	3-29
フロントフォークの調整	3-27
へ	
ヘッドライト上下切り替え／ パッシングライトスイッチ	3-3
ヘルメットホルダー	3-24
ほ	
ホーンスイッチ	3-4
方向指示器スイッチ	3-4
保管のしかた	7-3
歩行者と他の車のために	1-5
ま	
マルチファンクションメーター	3-10
め	
メインスイッチ	3-2
MENU スイッチ	3-5
も	
モデルラベル	9-2
り	
リヤクッションの調整	3-28
れ	
冷却水	6-5

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-101-B5B

PRINTED IN JAPAN
2020.01-0.3×1 CR (J)